

# NGU 教養スタンダード

## NGU 教養スタンダード

本学のカリキュラムの特色のひとつとして、どの学部の学生でも学べる「NGU 教養スタンダード科目」を開設しています。「NGU 教養スタンダード科目」は、現代社会で生きていくために必要な知識と技術をしっかり身につけ、専門知識だけに偏らない豊かな人間性を育てるために、次のような3つの目標を掲げて、カリキュラムを編成しています。

- キリスト教主義にもとづいた豊かな人格の形成
- 社会生活に必要な知識や技術の修得
- 成熟した市民として必要な教養の養成

## NGU 教養スタンダード科目の構成

### キリスト教に関する科目

「キリスト教」に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説」「キリスト教教学」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

### 自己理解と自己開発に関する科目

1年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～3b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

### 社会的教養に関する科目

「人間理解」、「社会理解」、「自然理解」、「歴史文化理解」、「環境理解」、「身体理解」、「地域理解」

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには専門の学修だけでなく、一般教養の修得が欠かせません。文学、哲学、心理学を学ぶ「人間理解」、社会のしくみを考える「社会理解」、自然をさまざまな角度からながめる「自然理解」、人間や世界の文化や歴史を学ぶ「歴史文化理解」、地球環境や生態系について考察する「環境理解」、スポーツの実技と理論、健康について学ぶ「身体理解」、まちづくりを多様な視点から考える「地域理解」の中から、バランスのよい履修を心がけてください。

### 言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」の6カ国語を学ぶことができます（リハビリテーション学部、スポーツ健康学部は英語科目のみ）。また、「手話」や「日本語表現上級」も学修することができます。

### 情報理解に関する科目

情報教育の充実が、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

## 教職に関する科目

ここに配置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

### 科目表の見方

各学部学科の科目表（P70以降）は以下の構成であらわしています。

- 授業科目名：その科目の名称をあらわしています。
- 単位数：その科目の単位数をあらわしています。  
「1」と表記されていたら1単位科目であり、「2」と表記されていたら2単位科目となります。
- 配当年次：その科目が受講できる年次をあらわしています。  
「2」と表記されていたら、2年生以上の学生が履修することができます。
- ナンバリング：その科目の科目ナンバーをあらわしています。
- 必修、選択：その科目が必修科目であるのか、選択科目であるのかをあらわしています。  
必修の欄に単位数が記載されていたら、その科目は必修科目となります。
- 選択必修科目：この欄に選択必修科目について記載をしています。
- 卒業要件：その学部学科の卒業要件をあらわしています。

## 地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）

### 大学 COC 事業に関する 4 年間の学修について

文部科学省は現在、「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を通じて、全学的に地域と連携した教育・研究・社会貢献に取り組む大学を支援しています。2013 年 8 月、名古屋学院大学は同事業に採択され、学生のみなさんが地域のことに興味関心を抱き、学修意欲を高められるカリキュラムを充実させました。これにより、企業が必要とする「社会人基礎力」が高まり、4 年後の就職にも有利となることをめざしています。

※ COC は Center of Community の略で、地域再生の核となる大学の意味です。

### 名古屋学院大学の取り組みの概要

本学の COC 事業はキャンパスの立地する名古屋市および瀬戸市を対象とし、両市が抱える地域の課題について、「地域商業」「歴史観光」「減災福祉」のまちづくりを通じて解決をめざすものです。

「地域商業まちづくり」・・・商店街活性化などを通じて地域経済効果の増大をめざします。  
 「歴史観光まちづくり」・・・歴史の掘起しや地域資源の発掘により歴史観光を推進します。  
 「減災福祉まちづくり」・・・災害に強いひとづくり・まちづくりをめざします。

学生のみなさんは、下図に示すカリキュラムにより、行政や地域（住民・企業・団体）とも連携・協力しながら学修を進めていきます。これらの授業においては、教室内での学修はもちろんですが、学外でのイベントやフィールドワークに参加する場合があります。

### COC に関するカリキュラムの流れ

カリキュラム	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
① 教育イベント「まちづくり提言コンペ」	→			
② 課題解決型授業（PBL）	→			
③ 地域志向型科目	→			
④ 教育イベント「地域フォーラム」			→	

- ① 全学生が参加する 1 年生の教育イベントとして、「基礎セミナー」において、名古屋市または瀬戸市にかかわる「まちづくり提言コンペ」を実施します。
- ② 課題解決型学習（PBL）として、全学共通の《NGU 教養スタンダード科目》において、地域商業・歴史観光・減災福祉に関する「まちづくり学」「まちづくり演習」を開設するとともに、希望者は「上級まちづくり演習」で継続受講することも可能です。
- ③ 全学部で、地域を学習対象とした地域志向型科目を充実していきます。
- ④ 全学生が参加する 3・4 年の教育イベントとして、「演習」での課題研究の成果などを地域の方向けに発表する「地域フォーラム」を実施します。

## 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

### COC+事業と2017年度のプログラム

「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」を踏まえ、地域と大学の連携をより深く進め、さらに地域での就業につなげるプログラムがCOC+（プラス）事業です。

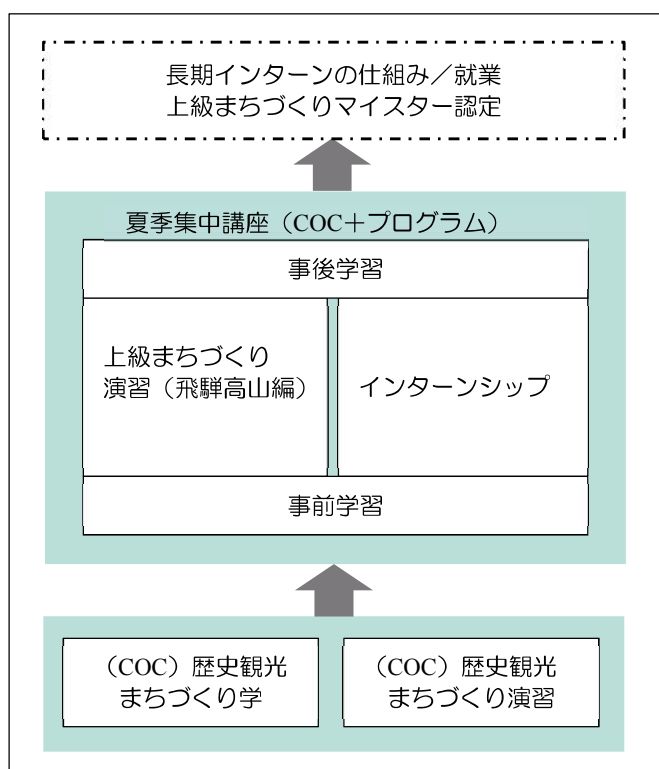
#### 2017年度COC+プログラム

COC+のプログラムでは、大学COC事業で培った知識や経験を前段として、地域とともに将来の地域づくりを担う人材（上級まちづくりマイスター）を育成します。

2017年度は、名古屋学院大学がCOC事業で地域づくりの題材とする「歴史観光」分野で開講します。古くから観光地域づくりで先進的な岐阜県高山市における観光地域づくり人材育成プログラムです。

COC+のプログラムは、COC事業の「歴史観光まちづくり学」「歴史観光まちづくり演習」科目の単位を修得した学生または履修している学生が受講できます。名古屋キャンパスと瀬戸キャンパスの両方の学生が参加可能です。

#### 高山市におけるCOC+プログラム「上級まちづくり演習」「インターンシップ」の流れと特徴



#### 《プログラムの特徴》

- 将来的に観光産業をめざすなら、日本有数の観光地で国内外からも注目の高い高山市で、観光産業にかかわる実務者とともに実践的な演習を受けられます。
- 将来的にサービス産業をめざす学生にとって、単なるアルバイト目線ではなく、サービス産業従事者の視点をもつチャンスです。観光地ならではの宿泊産業の体験をとおして、サービス業におけるサービスとは何か、ホスピタリティとは何かを考え、表現するスキルが身につきます。
- 高山市には観光産業をはじめ、多くの分野の企業があります。飛騨高山や下呂などの出身の学生にとっては、自分の地域をよりよく知り、魅力を発見する機会になります。

#### マイスター認定制度

##### 初級まちづくりマイスター

COCカリキュラムで開講中の「地域商業」「歴史観光」「減災福祉」の授業では、「まちづくり学」「まちづくり演習」の両方を履修し単位修得した学生に対し、「初級まちづくりマイスター」を認定します。

##### 上級まちづくりマイスター

COC事業で初級まちづくりマイスターを認定された者のうち、「上級まちづくり演習」を履修し単位修得すること、かつ公的な社会的活動に従事したり公的資格の取得をした学生を対象に、「上級まちづくりマイスター」を認定します。



## 外国語学部 英米語学科

### 教育目標（学則第3条の2より）

英米語学科は、英米語の実践的なコミュニケーション能力を習得し、その言語が使用されている地域の文化、社会や世界情勢などを学ぶことにより、広い教養を身につけた国際化に対応できる人材の育成を教育目標とする。

### ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

外国語学部英米語学科に所属する学生は、大学全体のディプロマ・ポリシーの内容に加え、学部および学科のカリキュラムを履修、学修することを通じて、以下の能力が獲得できます。これにあわせて、卒業に必要な単位を修得した学生には外国語学部から学士（文学）の学位が授与されます。

#### 知識・技能

- 1) 「ことば」という観点から、英語がもつ特質・特徴についての十分な知識を獲得し、理解を深めることができる。
- 2) 英語圏の文化、社会、歴史、価値観などについての十分な知識を獲得し、理解を深めることができる。
- 3) 実践的な英語力の獲得により、グローバルな環境で英語による的確なコミュニケーションや議論ができる。
- 4) 特定のトピックに関して、英語の正確な聞き取り、英語による自己表現を実践することができる。
- 5) 日本語を学ぶ外国人に、日本語、日本文化、日本の習慣・物の考え方などを教えることができる。
- 6) ビジネス、ツーリズムなどの実社会において、論理的に自分の意見を述べることができる。

#### 思考力・判断力・表現力

- 1) グローバルな視点から世界の文化、社会について考え、自分なりの評価を下すことができる。
- 2) 実社会で問題にぶつかった時、それについて注意深く考え、問題解決のための適切な判断を下すことができる。

#### 主体性・多様性・協働性

- 1) 世界の人間、文化、歴史、価値観などを尊重ことができ、より広い視野から世界を観察することができる。
- 2) 実社会に必要な自主性、協調性、ルール順守など、責任ある社会的態度を身につけ、集団内で積極的に活躍できる。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

ディプロマ・ポリシーで掲げた目標を達成するために、外国語学部英米語学科では、次のような教育内容、教育方法、学習成果の評価の方針に基づき、カリキュラム編成と授業実施を行います。

#### 教育内容

- 1) 外国語学部英米語学科のカリキュラムは、NGU 教養スタンダード科目と、学科専門科目によって構成されています。学生は必修科目とともに主体的興味・関心に即してその他の科目を選択します。
- 2) カリキュラムは、基礎から発展・応用へ、個人的レベルから社会的レベルに向かって学びの段階を上げていく学修体系となっており、社会人基礎力を着実に身につけることができます。
- 3) すべての科目は、履修を通じてどんな能力の養成をめざしているのか明示されているので、目的意識をもって計画的に学

修できます（養成される能力は、細かく 10 項目に分かれています。詳細は、前項「ディプロマ・ポリシー」を参照してください）。

- 4) 所定の科目を履修し単位を修得すれば、中・高教員免許（英語）や日本語教員養成プログラム修了証を取得できます。
- 5) 学部科目には、英米文学、英語学、日本語学など多岐にわたる科目が配置され、その多くは学習段階に合わせ、基礎から発展にいたる科目構成となっています。これらの科目を数多く履修することで、幅広い教養と同時に、専門的な深い学識が身につきます。
- 6) 学科専門科目では、基礎科目群として、英語の 4 技能の修得をめざした必修科目が配置されています。それを土台に発展科目群として、学生の細やかなニーズに応える多様な英語科目と、中・上級者を鼓舞する「英語で学ぶ」諸科目があります。
- 7) 英米語学科では、言語そのものを学ぶに止まらず、ディベートやプレゼンテーション、ビジネスライティングといった技能や、言語に関する学問を身につけます。仕上げとして「応用科目群」があり、国際社会への入口となるべき諸科目や、観光業や航空業などへのキャリア形成を応援するビジネス系科目を大量に配置しています。

### 教育方法

- 1) 学生の主体的な学びを引き出すため、ICT 技術の活用、少人数・双方向型の授業の推進を図るとともに、授業外の学修について適切に指導します。
- 2) 1 年次から 4 年次まで演習科目を配置し、グループワークやプレゼンテーション等を通して講義科目で修得した知識の定着を図ります。
- 3) インターンシップ、フィールドワーク、海外留学等、キャンパス外での学修機会を用意します。特に外国語学部では、海外留学による学修機会を豊富に用意しており、学生が異文化の中で経験を積み、その後の学修や社会に出てからのキャリア形成に貢献できるように努めています。

### 学修成果の評価

- 1) 各科目の評価は、シラバスに提示された方法に基づき、原則として平常点および試験等の総合評価により行われます。
- 2) 思考力・判断力・表現力や主体性・多様性・協働性については、それぞれの授業科目において必要に応じて達成度指標を設けて段階的に評価したうえで総合評価に加えます。とりわけアクティブ・ラーニングでは、ルーブリックでの評価が用いられます。
- 3) 学修成果として GPA の他、卒業研究や論文等で達成度を評価します。

## アドミッション・ポリシー（入学受入方針）

### 求める学生像

- 1) 英語をはじめとする外国語運用能力の向上を自主的にめざす者
- 2) 外国の社会・文化・歴史などに強い関心と理解を持つ者
- 3) 学修した英語をはじめとする運用能力を大いに活用して、国際ビジネス関係、観光業や航空業などに就職したい、また英語教育に携わりたい、海外で日本語教員として活躍したいなど、自分の夢に向かって確実に進んでいく強い意志と向上心をもった者

### 入学時までに身に付けるべき知識、能力等

- 1) 高等学校の英語をはじめとする教科に関する基礎的・基本的な知識・技能

- 2) 基礎的・基本的な知識・技能に基づき、自分の考えをまとめ、他者に伝えるための思考力・判断力・表現力
- 3) 教科の学習にとどまらず、学校内外の多様な学習や活動を経験することによる、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

## 入学者選抜

大学全体の方針に従い、大学入学時までには培われた確かな基礎学力、各学部学科への適性、多様な学習や活動を通じて身に付けた能力や意欲等を、多面的・総合的に評価することを入学者選抜の基本的な方針としています。

### 1) 学力試験

本学独自の学力試験または「大学入試センター試験」の成績に基づき、本学での学修に必要な基礎学力を有すると判断した者を選抜します。

### 2) 推薦試験

書類審査、面接、小論文等により、高等学校での成績や諸活動（特別活動、部活動、生徒会活動、取得資格等）の状況、各学部学科への適性や意欲等を評価します。

### 3) AO 試験

本学第1志望者を対象とし、書類審査（調査書等・事前課題）および講義・試験・ディスカッション等により、専攻学問分野の修得に必要な基礎的理解力・考察力・協調性・表現能力等を評価します。

## カリキュラムの概要

### 1) 英米語学科の科目について

英米語学科生が履修する科目は大きく区分すれば、《学部科目》と《学科専門科目》の2つです。

2-1) 《学部科目》は、本学部でぜひ学んでいただきたい、英語や言語についての科目から成り立っています。言語は文化や社会と密接に結びついたものであり、英語の《学部科目》には、教養ある話し手になるためにみなさんに知ってもらいたい内容を提供する科目です。《学部科目》には、英語学習に役立つ情報も多く含まれています。

2-2) 《学科専門科目》は、演習（3・4年次必修）と次の3つの科目群からなっています。

#### (1) 基礎科目群

この科目群は英語の skills を定着させ、さらに磨きをかけることを目的とした〈英語力強化科目〉からなっています。これらの科目は少人数制で編成され、英語の実践的な能力（「話す、聞く、書く、読む」の4技能）を養うことを目的とします。このため、1年次必修科目の「英語」科目では、各学期に週4回（各90分）の授業をネイティブスピーカーの教員と日本人教員の連携により進めます。特に、「スピーキング」は、20名以下のクラスによって授業がおこなわれ、効果的に英会話能力を身につけることができます。これまでの英語学習の基本的な部分に不安を感じている学生のために、習熟度別クラス編成を採用しています。現在の英語力と授業の難度・進度が合致し、学生が自信をもてるような編成です。うまく活用して英語力を伸ばすようにしましょう。

#### (2) 発展科目群

この科目群は《基礎科目群》で得た技能を土台として、より実践的な英語力の獲得をめざす〈英語力発展科目〉からなっています。「英語：プロジェクト」はコミュニケーションスキルと言語知識を統合する科目で、自分の英語力をフルに活用して各学生が自分の興味に応じて選択したテーマについて調査しプロジェクトワークをおこないます。コスメティック英語などの Hobinglish 科目や、ツーリズムなどで用いる実用的な英語を学ぶ科目、さらに、留学のための TOEFL（留学英語中級・上級）や就職で求められる TOEIC の対策コースも用意してあります。実践的な「英語で」講義に参加する〈英語で学ぶ科目群〉はいわば留学して授業を受けているのと同じです。

英語学修自体が目的ではなく、英語を用いて授業に参加することによって、実践レベルでの英語運用力の開発をめざします。

### (3) 応用科目群

《応用科目群》の特徴は社会を意識させる科目群であると言えます。社会のしくみや世界情勢などを学ぶ〈国際社会入門科目〉と、就職ならびに業界・業種研究に繋がる〈キャリア形成科目〉からなっており、みなさんは大学での学びと社会とを結びつけることができます。後者は、英米語学科生に人気のツーリズム関係の科目（エアライン講座科目を含む）、英語教員をめざすための科目、ビジネス関係の科目が揃っています。英語運用力だけでは社会で活躍することはできません。この《応用科目群》を履修しながら、自分の将来について考え、キャリア形成に繋げることができます。

なお、《学科専門科目》には演習と上記 3 つの科目群のほか、《外国文化体験科目》があります。この科目（「海外事情 1～16」「外国事情 A～D」）は留学による単位認定のための授業科目です。

### 3) 正課外としてベルリッツとタイアップした超少人数英会話

必修科目で磨いた英語力をさらに向上させたい人たちは、1 クラス 4 名の超少人数英会話教室を正課外科目として開講しています、世界的に有名な語学学校のベルリッツと開学から 50 年英語教育法を蓄積してきた本学がコラボレートした英会話トレーニングで、さらに高度な英会話力を身につけることができます。

以上のように、本学科のカリキュラムは、受講者の力と関心に沿って学修ができるように編成されていますので、みなさんはその科目がもつ目的をしっかりと把握した上で受講してください。

## カリキュラム上の特色

### 英米語学科の特色

「人と英語と社会をつなぐ」が英米語学科のカリキュラムモットーです。本学で培う「豊かな人間力」に「実践的英語力」と「キャリア形成」を結びつけることを目標に本学科の教育課程（カリキュラム）は編成されています。英語のエキスパートを育成するために、国際社会の中で自らの意見を発信し、知的に表現できるような高度なコミュニケーション能力の養成に重点を置きます。同時に、卒業後の進路について考えるための材料を提供する科目群が整備されています。具体的には次のような特色をもっています。

### (1) 英語を徹底的に追求したい学生に高度な英語運用能力を保証するカリキュラム

高度な英語運用能力を身につけたいという学生のために〈英語で学ぶ科目群〉（〈英語力強化科目〉からさらにステップアップした「英語で」学ぶ科目。授業はすべて英語でおこなわれます）があります。英語はあくまでも道具であり、英語を学習すること自体が目標ではありません。英語を通じて新しいことを学んでいきます。最初は難しいと思うかもしれませんが慣れれば意外とやさしいものです。おじけずにチャレンジしていきましょう。自分の力がどれくらい通用するかを試す絶好のチャンスです。積極的にチャレンジすれば飛躍的に英語力を高めることができます。

### (2) グローバルな環境で国際性を磨く充実した留学制度

名古屋学院大学と言えば「留学」と言われてきたように、本学科の大きな特色に充実した留学制度があげられます。国際センターと協働で、留学をめざす学生を支援します。単位振替も柔軟に対応できるようになっています。

### (3) 大学卒業後のキャリア形成に役立つ科目が充実したカリキュラム

英語力を武器にして自分のキャリアを切り開いていくために、職業に直結する科目を大幅に増やしました。大学に入学する時点では4年後の自分を描くことは難しいことです。そこで、社会のしくみや仕事に関係する常識・知識などを提供する<キャリア形成科目>をうまく使って自分の将来を描いていくことにしましょう。同時に、国際社会についての基礎知識を学ぶことも、大学4年間の大きな目的のひとつです。特にグローバルな現代社会においてさまざまな地域について研究することは、地球市民として21世紀を生きてゆく若者たちには不可欠な知見であると考えます。

#### (3-1)エアライン講座

キャビンアテンダントやグラウンドスタッフなどの業種で、就職を考えている学生を対象とした講座を開講しています。ANA（全日本空輸）との連携による実践的な科目も用意されています。航空業界で培われてきた「おもてなし」のスキルを学ぶことができます。講義だけでなく、中部国際空港などの航空関連施設での実地研修や、講師による個別指導も準備されています。

本講座は航空業界の視点で求められる適性を把握し、各自の今後の大学生活を方向づける一助となるものです。キャビンアテンダントの就職にはTOEIC700点以上が必要と言われており、エアライン系に就職を希望する学生は1年次から英語力をつける必要があります。

1・2年次で本学カリキュラムの下記の科目を履修し、3年次には、おもに学外の専門学校で就職対策科目を履修します。その際、3年次の専門学校での履修については別途費用が必要となり、科目は本学のカリキュラム外のため、単位認定はしません。詳細は別途案内します。

#### <エアライン講座科目>

- 1年次 「エアライン研究1」 (2単位) \*原則として希望者は履修できます。  
「エアラインサービス論」 (2単位) \*原則として希望者は履修できます。  
「ホスピタリティ論1」 (2単位) \*原則として希望者は履修できます。

- 2年次 「エアライン研究2」 (2単位)  
\*履修登録は、「エアライン研究1」を履修し、単位を修得した者にかぎります。  
\*詳細は各授業担当者に確認してください。

「ホスピタリティ論2」 (2単位) \*詳細は各授業担当者に確認してください。

- 3年次 「ホスピタリティ論3」 (2単位) \*詳細は各授業担当者に確認してください。

※ 3年次では、エアライン就職をより確かなものにするために、学外専門学校をお勧めします。別途費用が必要です。なお、単位認定はありません。

#### (3-2)充実のツーリズム（旅行・観光業）科目群

多くの学生にとって希望業種であるツーリズム関係の科目を開講しています。

ツーリズムでのビジネス経験をもつ専任教員から実践的な授業が展開されます。もちろん、英米語学科の学生を対象とした科目なので、世界共通語である英語を用いた海外（アウトバウンド）ツーリズムを対象とするのはもちろんですが、海外から（インバウンド）の観光という観点からの内容も含まれます。エアライン講座科目とあわせて履修するとツーリズムに関心のある学生には就職に有利に働きます。また、国内外の観光業を視察するツーリズム実習もあります。

### (4) 中学校・高等学校の教員免許取得について

英米語学科では中学校教諭（英語）と高等学校教諭（英語）の1種免許状を取得するための教職課程が認められています。中学校・高校の教諭になりたいという希望をもつ学生は、教職課程に加入し、計画的に必要な単位をとるよう

心がけてください。単位の修得にあたっては、「教職課程ハンドブック」を確認してください。

**(5) 日本語教員養成のためのプログラムの設置**

日本語を学ぶ外国人に日本語や日本文化、日本の習慣や考え方などを教える日本語教員をめざす学生たちのために「日本語教員養成プログラム」を設置しています。このプログラムをとおして日本語教育のための基礎的・総合的な能力を身につけることが可能です。卒業所要単位につけ加えてこのプログラムで定める単位を修得すれば、修了証が交付されます。加入者募集は1年次の秋におこないます。

**(6) 「楽しみながら英語（Hobinglish）」科目の配置**

興味ある分野から英語へアプローチ：ホビングリッシュ科目を準備して楽しみながら英語を学べます。Hobinglish＝Hobby English とは興味ある分野から英語を学ぶためのトレンド的なアプローチです。「コスメティック英語」、「アニメ英語」、「ドラマ英語」などの科目を用意しています。「好きこそものの上手なれ」お化粧品に関心のある人や、英語劇にチャレンジしたい人などにとっては趣味と同時に英語を学べる絶好の機会です。

**(7) 検定試験対策の充実と成果をあげた学生に単位認定を実施**

英検合格、TOEIC・TOEFL での高得点をめざす学生を支援します。資格取得や留学など、それぞれのニーズにあわせて効果的な学修ができるよう、検定試験合格による単位認定もおこないます。例えば、英検や TOEIC および TOEFL などの基準を示し、基準に達した場合に単位を認定するなど、より多彩な学修ニーズにあわせた制度を設けています。

社会で役立つ実践的な教育を重視している英米語学科では、資格試験や留学など、みなさんの志望にあわせて効果的な学修ができるよう、さまざまな資格取得のためのバックアップをおこなっています。教育課程（カリキュラム）の中で、各種の資格検定試験に向けての指導をおこなうほか、学部が指定した資格検定試験の結果をみなさんが申請することにより、所定の単位を認定（R 評価として認定）する制度があります。次の各項に掲げる資格検定試験の合格者および TOEIC・TOEFL 試験の基準点をクリアした学生については、次の授業科目の単位を修得したものと認定しています。これらに該当し、認定を希望する学生は定められた期間内に教務課で所定の手続きをおこなってください。ただし、入学前に取得した資格等は、入学年度以外は申請を許可しません。同科目を履修中の場合は、申請が認められ次第、同科目の単位が認定されますので、それ以降の受講は不要となります。

英米語学科の資格取得による単位認定について

項番	単位認定の対象となる資格検定試験など	認定される授業科目（単位数）	認定される単位数合計
1	実用英語技能検定 2 級	TOEIC 英語初級（2）	計 2 単位以内
2	実用英語技能検定準 1 級	① TOEIC 英語初級（2） ② TOEIC 英語中級（2） ③ TOEIC 英語上級（2）	1 年生： 計 6 単位以内 2 年生以上： 計 4 単位以内
3	TOEFL iBT 61 点以上 — 80 点未満 TOEFL-ITP 500 点以上 — 550 点未満	① TOEIC 英語初級（2） ② TOEIC 英語中級（2） ③ TOEIC 英語上級（2） ④ 留学英語中級（2）	計 4 単位以内



項番	単位認定の対象となる資格検定試験など	認定される授業科目（単位数）	認定される 単位数合計
4	TOEFL iBT 80 点以上 TOEFL ITP 550 点以上	① TOEIC 英語初級 (2) ② TOEIC 英語中級 (2) ③ TOEIC 英語上級 (2) ④ 留学英語中級・上級 (各 2)	計 8 単位以内
5	TOEIC Listening & Reading または TOEIC Listening & Reading IP 600 点以上 — 670 点未満	① TOEIC 英語初級 (2) ② TOEIC 英語中級 (2)	2 単位以内
6	TOEIC Listening & Reading または TOEIC Listening & Reading IP 670 点以上 — 800 点未満	① TOEIC 英語初級 (2) ② TOEIC 英語中級 (2) ③ TOEIC 英語上級 (2)	4 単位以内
7	TOEIC Listening & Reading または TOEIC Listening & Reading IP 800 点以上	① TOEIC 英語初級 (2) ② TOEIC 英語中級 (2) ③ TOEIC 英語上級 (2) ④ 留学英語中級 (2) ⑤ 留学英語上級 (2)	8 単位以内

(1) 単位が認定される授業科目の成績評価は、いずれの場合も「R」とします。

(2) 過去に申請した点数・等級を下回る申請は認定しません。

(3) 認定の上限は 8 単位までとします。

(4) 申請は教務課で受け付けます。

\* その他の資格認定については《単位認定される資格一覧》の外国語学部覧 (P47) を参照してください。

#### 他機関との単位互換

##### ● 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所での言語研修

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所は日本で初めての人文科学系の共同利用研究所であり、毎年多くの研修や研究会がおこなわれています。本学は同研究所と単位交換の協定を締結しており、夏期休暇中に東京地区と関西地区で実施される言語研修を修了した場合は、研修時間数に応じて、本学の科目「海外事情」・「外国事情」(8 単位を上限) に振替えることができます。

※ 過去に開催された言語研修や参加申し込みなど、詳細は東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所ホームページ (<http://www.aa.tufs.ac.jp/>) で確認できます。

※ 単位の振替は、修了証を持参の上、教務課窓口で申請してください。

#### 大学院科目の単位履修

##### ● 大学院進学コース

外国語学部では、本学の大学院外国語学研究科(英語学専攻・国際文化協力専攻)と連携し、学部教育の充実・発展をはかることを目的に、「大学院進学コース」を設置しています。学部の 4 年次にコースに加入し、大学院の授業科目を先取りして履修することにより、大学院進学後に単位認定を受けることができます。大学院在籍 1 年間で修士課程を修めることも可能であり、学部在籍 4 年、大学院在籍 1 年で修士の学位を取得することもできます。また、大学院への進学が未定の場合でも、4 年次に高度な専門知識を学びたいと願う学部生は本コースへ加入することができます。このように、学部と大学院の



連携を密接にすることにより、意欲的な学生層が形成され、新たなる教育効果が発揮されることを期待しています。

大学院進学コースでの履修は、以下のとおりです。

- ① 大学院で開講されている科目（演習を除く）について、学部4年次に履修します。
- ② 大学院での履修単位は、学部の卒業要件には含まれません。
- ③ 大学院授業科目の履修は、演習科目を除き10単位を上限としています。
- ④ 大学院での履修は、各学期（セメスター）の履修制限単位（24単位）には含まれません。
- ⑤ 大学院授業科目は、大学院の科目等履修生として履修します。
- ⑥ 本学大学院に進学した場合は、本コースでの修得単位は大学院（修士課程）の修了単位に含めることができ、特に成績の優れた学生は大学院在籍1年間で修士の学位を取得することが可能となります。

大学院進学コースへの加入を希望する方は、教務課にお問い合わせください。

※ 指定された期日までに「大学院進学コース加入申込書」を教務課に提出してください。

## 演習科目について

英米語学科では、3年次から「演習」（ゼミ）に参加して、卒業にいたるまでの2年間、専門的な研究活動をおこないます。卒業するために、「演習」は3、4年次の2年間続けて履修しなければなりません。「演習」はみなさんの英米語学科での学修の中核に位置し、学生生活の集大成をおこなう授業科目です。指導教員の指導のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や議論を通じて問題を解決しながら、自らの能力の向上に努めるとともに、人格的な交流をとおして、多くの友人関係を育成し、また、指導教員との間にみなさんの学修にとって有意義なコミュニケーションのパイプを形成してください。

「演習」は、指導教員と学生、あるいは学生相互間での学問的な意見交換の場であり、各学生が主体的に活動を進めていく点が、他の授業科目と根本的に異なります。そこでは、自己の学問的見解を進んで発表し、これに寄せられるさまざまな意見を聞くことによって、専門的知識の水準を高めていくことが必要です。「演習」で作成される卒業論文は、みなさんにとってはじめての本格的な論文作成となり、貴重な経験として、卒業後も役に立つことになるはずで

また、「演習」ではみなさんの進路指導もおこないます。指導教員、他の学生（または先輩学生）と相談をしながら進路を選択し、履歴書やエントリーシート作成、面接の準備などをおこないます。

### 「演習」の募集と応募について

「演習」を受講するためには、まず2年次春学期におこなわれるガイダンスに参加することが必要です。各教員からゼミの内容・実施方法などについての説明をよく聞いて、希望する指導教員を決定してください。その後、2年次秋学期にCCSを通じて応募をおこない、選考の結果所属する「演習」が決定します。演習募集時の募集要項をよく読み、日程などを間違えないよう、確実に応募手続きをおこなってください（応募時期に海外留学へ行く学生は、締め切り時期や応募方法が異なる場合がありますので、事前に必ず教務課で確認をしてください）。

### 基礎セミナー

3、4年次の演習とは別に、1年次春学期には「基礎セミナー」を履修します。これは、新入生のみなさんが新しい大学生活を始めるための第一歩をお手伝いするための科目です。具体的には、名古屋学院大学はどんな大学なのか、大学ではどのように学習していけばいいか、レポートの書き方、発表のしかたなどについて学びます。

## 履修モデル

英米語学科では、英語の実践的な能力を磨くための〈英語力強化科目〉「英語 101～英語 206」、〈英語力発展科目〉「英語プロジェクト 1～4」および演習が必修科目となっています。

これらの授業科目以外はすべて選択科目であり、どの授業科目を履修するかは、卒業するための条件や授業時間割上の制約などがありますが、基本的にはみなさんが自由に決めることができます。しかしながら、明確な学修計画を立てずに、ただ決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修のしかたでは、たとえ4年間在籍したとしても、英米語学科の卒業生にふさわしい能力と見識をもつことはできません。したがって、自らの学修目標にあわせて、各々の授業科目の内容や開講時期（配当年次）を考慮しながら系統的に履修しなければなりません。

ここでは、みなさんの学修計画が立て易いように、以下の3つの履修モデルを示します。

- A. 高度な英語実践力を身につけるモデル
- B. グローバルな企業人をめざすモデル
- C. エアラインや旅行・観光業界就職をめざすモデル

### A. 高度な英語実践力を身につけるモデル

高度な英語運用能力を身につけたい学生や、英語教員・海外での日本語教員をめざす学生に対応します。資格試験で高得点をめざすだけでなく、〈英語で学ぶ科目群〉を履修することで、「使える」英語の獲得をめざします。

この履修モデルでは以下のような授業を履修します。

英語で学ぶ科目群	上級英語 1、リサーチ&スピーチ、英語プレゼンテーションなど
英語力発展科目	留学英語上級、TOEIC 英語上級、英語同時通訳入門など
その他	海外事情（留学）など

### B. グローバルな企業人をめざすモデル

英語力を武器にして、グローバル社会の中で自分のキャリアを切り開いていくための力を身につけるモデルです。英語力だけでなく、国際感覚やビジネスに関する知識を得たい学生に向いています。

この履修モデルでは以下のような授業を履修します。

英語力発展科目	グローバル英語、ビジネス英語、留学英語中級など
キャリア形成科目	ビジネス翻訳、社会と企業など
その他	海外事情（留学）、アメリカ研究 1、グローバル・イシューなど

### C. エアラインや旅行・観光業界就職をめざすモデル

エアライン関係（キャビンアテンダントやグラウンドスタッフ）やツーリズム関係（旅行代理店、ホテル）をめざしている学生に対応しています。就職の際に必要な TOEIC のスコアアップに加え、実践的な授業を受けることで即戦力を身につけることができます。

この履修モデルでは以下のような授業を履修します。

英語力発展科目	エアライン英語、ツーリズム英語、TOEIC 英語中級など
キャリア形成科目	エアラインサービス論、ツーリズム研究、ホスピタリティ論 2 など
その他	海外事情（留学）など

もちろん、ここにあげた3つの履修モデルは、あくまでモデルケースとして考えたもので、これら以外にもみなさんの学修意欲と目的に応じて、自分自身の履修パターンをつくることができます。

重要なことは、どんな優れた語学プログラムでもそこだけの学修で言語を習得するのは無理だという認識です。英米語学科の教育課程（カリキュラム）も優れたものではありませんが、学習者の日々のトレーニング抜きでは、英語運用能力を実用水準にまで高めることはできません。授業を十分に活用し、課題をこなし、ネイティブの教員や留学生と積極的に英語でコミュニケーションをとることが大切です。また、通学時などの細切れの時間を利用することも考えてください。コンピュータ、CD、DVDなどを利用して、音声言語としての英語に慣れましょう。このための時間として年間400時間を目標とするとよいでしょう。

さらに、年間1,000ページくらいを目標に、英語の読み物やニュース記事などを読んでみるのも重要です。読めるスピードが聞けるスピードだと言われています。簡単な英語のレベルの読み物でいいので、多量の読み物を読みましょう。高校1年レベルの英文が直読直解できるようになることが第1の目標です。英語は勉強というよりもトレーニングです。水泳などのスポーツと同じです。知識だけでは泳げません。水も飲みますし、溺れもします。しかし、それがあって泳げるようになるのです。英語もそうです。間違えてかまいません。恥をかいていいのです。そのような繰り返しの中で知識としての英語がスキルに変化していくのです。みなさんは本学科に入学できた知識をもっているのですから、まずはそれを使っていきましょう。TOEIC700点になれば、あるいは英検準1級に合格すれば英語が聞き、話せるのではないのです。今のみなさんがもっている英語力を使うことから始まります。野球で身を立たいと思う人が毎日素振りをするのと同じように、英語のトレーニングを習慣づけてください。そして、いつもどのようにすれば効果的なトレーニングができるかを意識してください。

さらに本学の特徴である留学は、英語をより深く身につけるために大きな効果が期待できます。そればかりでなく、英語を話す人々の文化を理解し、自分自身を客観的に見る機会を与えてくれます。これらのプログラムにも積極的に参加して、英語学修の効果をいっそう高めてください。

## 卒業要件

### 卒業要件単位の修得

外国語学部のカリキュラム表にもとづいて必要な単位数（124単位）以上を修得しなければなりません。

### 卒業要件単位数

上記の、学則第16条に規定する単位数（124単位）を卒業要件単位数といいます。それぞれの単位数には必修科目を含みます。授業科目表と照らして区分ごとの要件をよく確認し、4年間の履修計画をしっかりと立ててください。

NGU教養 スタンダード科目	キリスト教		4単位以上	34単位以上
	自己理解と自己開発		6単位以上	
	社会的教養	人間理解、社会理解、自然理解 歴史文化理解、環境理解 身体理解、地域理解	12単位以上	
	教職 <sup>※1</sup>		10単位以上	
	言語とコミュニケーション			
情報理解		2単位以上		
学部科目			14単位以上	14単位以上
学科専門科目	必修		30単位	54単位以上
	選択		24単位以上	
自由選択科目(フリーゾーン) <sup>※2</sup>				22単位以上
合計				124単位以上

※1 教職課程加入者のみ履修可。8単位までは社会的教養の単位とすることができる。

※2 NGU教養スタンダード科目、学部科目、学科専門科目、オープン科目を問わない自由な選択

授業科目名		単位数		配当 年次	ナンバ リング
		必修	選択		
キリスト教					
キリスト教概説		2		1	AV1101
キリスト教教学		2		1	AV1102
キリスト教と文学			2	2	AV2301
キリスト教と文化			2	2	AV2302
キリスト教倫理			2	2	AV2303
キリスト教史			2	1	AV1301
自己理解と自己開発					
基礎セミナー		2		1	AW1101
発展セミナー			2	1	AW1301
キャリアデザイン1a			2	1	AW1302
キャリアデザイン1b			2	1	AW1303
キャリアデザイン2a			2	2	AW2301
キャリアデザイン2b			2	2	AW2302
キャリアデザイン3a			2	3	AW3301
キャリアデザイン3b			2	3	AW3302
能力開発1			2	1	AW1601
能力開発2			2	1	AW1602
能力開発3			2	1	AW1603
ボランティア学			2	1	AW1304
ボランティア演習			2	1	AW1305
インターンシップ1			2	1	AW1306
インターンシップ2			2	1	AW1307
社会的教養					
人間理解	哲学		2	1	AX1301
	哲学史		2	1	AX1302
	心身関係論		2	1	AX1303
	日本文学		2	1	AX1304
	日本文学史		2	1	AX1305
	心理学概論		2	1	AX1306
	現代日本文化論		2	1	AX1307
	比較文化入門		2	1	AX1308
	多文化共生論		2	1	AX1309
	文明論		2	1	AX1310
	宗教と人間		2	1	AX1311
	聖書と人間		2	1	AX1312
	キリスト教人間学		2	2	AX2301
	死生学		2	1	AX1313
臨床心理学		2	1	AX1314	
社会理解	社会学入門		2	1	AX1315
	宗教社会学		2	1	AX1316
	比較宗教学		2	1	AX1317
	日本国憲法		2	1	AX1318
	現代社会と法律		2	1	AX1319
	暮らしと法律		2	1	AX1320
	現代社会と経済		2	1	AX1321
	経済の仕組み		2	1	AX1322
	企業と社会		2	1	AX1323
	国際関係論入門		2	1	AX1324
	国際政治学		2	1	AX1325
	国際社会入門		2	1	AX1326
	国際社会問題		2	1	AX1327
	現代社会と教育		2	1	AX1328
平和学入門		2	1	AX1329	
人権と社会		2	1	AX1330	
自然理解	数学		2	1	AX1331
	数理学		2	1	AX1332
	基礎統計学		2	1	AX1333
	実用統計学		2	1	AX1334
	化学		2	1	AX1335
	化学と社会		2	1	AX1336
	生物学		2	1	AX1337
	地球科学概論		2	1	AX1338
	地球物理学概論		2	1	AX1339
	人類学		2	1	AX1340
物理学		2	1	AX1341	
科学史		2	1	AX1342	
生命倫理		2	1	AX1343	
歴史文化理解	日本史		2	1	AX1344
	日本思想史		2	1	AX1345
	日本文化史		2	1	AX1346
	中国文化入門		2	1	AX1347
	英米文化入門		2	1	AX1348
	文化人類学入門		2	1	AX1349
	世界の近現代史		2	1	AX1350
	世界史		2	1	AX1351
	考古学入門		2	1	AX1352
	陶芸論		2	1	AX1353
陶芸演習		2	1	AX1354	

授業科目名		単位数		配当 年次	ナンバ リング
		必修	選択		
環境理解	環境科学		2	1	AX1355
	生態学		2	1	AX1356
	地域生態論		2	1	AX1357
	地球環境学		2	1	AX1358
身体理解	健康の科学		2	1	AX1359
	スポーツの科学		2	1	AX1360
	スポーツ初級A		1	1	AX1361
	スポーツ初級B		1	1	AX1362
	スポーツ中級A		1	2	AX2302
	スポーツ中級B		1	2	AX2303
地域理解	スポーツ上級A		1	3	AX3301
	スポーツ上級B		1	3	AX3302
	地域商業まちづくり学		2	1	AX1363
	歴史観光まちづくり学		2	1	AX1364
	減災福祉まちづくり学		2	1	AX1365
	地域商業まちづくり演習		2	1	AX1366
歴史観光まちづくり演習		2	1	AX1367	
減災福祉まちづくり演習		2	1	AX1368	
上級まちづくり演習		2	2	AX2304	
言語とコミュニケーション					
日本語表現		2		1	AJ1101
日本語表現上級			2	1	AJ1301
入門ドイツ語1			1	1	AJ1201
入門ドイツ語2			1	1	AJ1202
基礎ドイツ語1			1	1	AJ1203
基礎ドイツ語2			1	1	AJ1204
時事ドイツ語1			1	2	AJ2209
時事ドイツ語2			1	2	AJ2210
応用ドイツ語1			1	2	AJ2211
応用ドイツ語2			1	2	AJ2212
入門フランス語1			1	1	AJ1205
入門フランス語2			1	1	AJ1206
基礎フランス語1			1	1	AJ1207
基礎フランス語2			1	1	AJ1208
時事フランス語1			1	2	AJ2215
時事フランス語2			1	2	AJ2216
応用フランス語1			1	2	AJ2217
応用フランス語2			1	2	AJ2218
入門スペイン語1			1	1	AJ1209
入門スペイン語2			1	1	AJ1210
基礎スペイン語1			1	1	AJ1211
基礎スペイン語2			1	1	AJ1212
時事スペイン語1			1	2	AJ2221
時事スペイン語2			1	2	AJ2222
応用スペイン語1			1	2	AJ2223
応用スペイン語2			1	2	AJ2224
入門中国語1			1	1	AJ1213
入門中国語2			1	1	AJ1214
基礎中国語1			1	1	AJ1215
基礎中国語2			1	1	AJ1216
時事中国語1			1	2	AJ2227
時事中国語2			1	2	AJ2228
応用中国語1			1	2	AJ2229
応用中国語2			1	2	AJ2230
入門韓国語1			1	1	AJ1217
入門韓国語2			1	1	AJ1218
基礎韓国語1			1	1	AJ1219
基礎韓国語2			1	1	AJ1220
手話入門			1	1	AJ1302
手話基礎			1	1	AJ1303
情報理解					
情報処理基礎		2		1	AZ1101
情報概論			2	2	AZ2301
教職					
教職論			2	1	BQ1401
教育原理			2	1	BQ1402
教育心理学概論1			2	1	BQ1403
教育心理学概論2			2	1	BQ1404
教育制度論			2	1	BQ1405
特別活動論			2	2	BQ2401
教育の方法と技術			2	2	BQ2402
道徳教育論			2	2	BQ2403
生徒・進路指導論			2	2	BQ2404
教育相談			2	2	BQ2405



英米語学科 専門科目

	授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング	
		必修	選択			
学 部 科 目	英語学概論1		2	1	FE1301	
	英語学概論2		2	1	FE1302	
	英米文学概論1		2	1	FE1303	
	英米文学概論2		2	1	FE1304	
	応用言語学概論1		2	1	FE1305	
	応用言語学概論2		2	1	FE1306	
	英語学講義1		2	2	FE2301	
	英語学講義2		2	2	FE2302	
	英米文学講義1		2	2	FE2303	
	英米文学講義2		2	2	FE2304	
	応用言語学講義1		2	2	FE2305	
	応用言語学講義2		2	2	FE2306	
	日本語概論1		2	2	FE2307	
	日本語概論2		2	2	FE2308	
	日本語学1		2	2	FE2309	
	日本語学2		2	2	FE2310	
	ことばの世界		2	2	FE2311	
	ヨーロッパの思想と文学		2	2	FE2312	
	演習		8		3~4	FE3101・FE4101
	基 礎 科 目 群	英語101スピーキング		1	1	FE1101
		英語102スピーキング		1	1	FE1102
		英語103ライティング		1	1	FE1103
		英語104ライティング		1	1	FE1104
英語105リーディング			1	1	FE1105	
英語106リーディング			1	1	FE1106	
英語107リスニング			1	1	FE1107	
英語108リスニング			1	1	FE1108	
英語201スピーキング			1	2	FE2101	
英語202スピーキング			1	2	FE2102	
英語203ライティング			1	2	FE2103	
英語204ライティング			1	2	FE2104	
英語205リーディング			1	2	FE2105	
英語206リーディング			1	2	FE2106	
留学英語中級			2	1	FE1307	
留学英語上級			2	2	FE2313	
TOEIC英語初級			2	1	FE1308	
TOEIC英語中級			2	1	FE1309	
TOEIC英語上級			2	2	FE2314	
英語プロジェクト1			2	1	FE1109	
英語プロジェクト2			2	1	FE1110	
英語プロジェクト3			2	2	FE2107	
英語プロジェクト4			2	2	FE2108	
エアライン英語			2	2	FE2315	
ツーリズム英語			2	2	FE2316	
ビジネス英語			2	2	FE2317	
ニュース英語		2	2	FE2318		
グローバル英語		2	2	FE2319		
インターネット英語		2	2	FE2320		
英 語 力 発 展 科 目 群	ドラマ英語		2	2	FE2321	
	エンターテインメント英語		2	2	FE2322	
	コスメティック英語		2	2	FE2323	
	アニメ英語		2	2	FE2324	
	英語翻訳入門		2	2	FE2325	
	英語同時通訳入門		2	2	FE2326	
	英語で学ぶ科目群					
	中級英語1読解&ディベート		2	2	FE2327	
	中級英語2読解&ディベート		2	2	FE2328	
	上級英語1リサーチ&スピーチ		2	2	FE2329	
	上級英語2リサーチ&スピーチ		2	2	FE2330	
	英語プレゼンテーション		2	2	FE2331	
	英語ビジネスディスカッション		2	2	FE2332	
	英語ビジネスライティング		2	2	FE2333	
	異文化間コミュニケーション		2	2	FE2334	
	言語と心理		2	2	FE2335	
	言語と文化		2	2	FE2336	
言語と社会		2	2	FE2337		
日本文化研究		2	2	FE2338		
アメリカ文化研究		2	2	FE2339		

	授業科目名	単位数		配当年次	ナンバリング
		必修	選択		
学 科 専 門 科 目	国際社会入門科目  キャリア形成科目  外国文化体験科目	アメリカ研究1	2	2	FE2340
		アメリカ研究2	2	2	FE2341
		ヨーロッパ研究1	2	2	FE2342
		ヨーロッパ研究2	2	2	FE2343
		グローバル・イシュー	2	2	FE2344
		英語科教育法1	4	2	FE2345
		英語科教育法2	4	2	FE2346
		早期英語教育法	2	2	FE2347
		ビジネス翻訳	2	2	FE2348
		社会と企業	2	2	FE2349
		貿易・商社研究	2	2	FE2350
		流通研究	2	2	FE2351
		メディア研究	2	2	FE2352
		秘書キャリア研究	2	2	FE2353
		ツーリズム研究	2	2	FE2354
		ツーリズム演習	2	3	FE3301
		ホテル業研究	2	2	FE2355
		ホテル業演習	2	3	FE3302
		エアライン研究1	2	1	FE1310
		エアライン研究2	2	2	FE2356
		観光文化論1	2	2	FE2357
		観光文化論2	2	2	FE2358
		ホスピタリティ論1	2	1	FE1311
ホスピタリティ論2	2	2	FE2359		
ホスピタリティ論3	2	3	FE3303		
エアラインサービス論	2	1	FE1312		
海外事情1	4	1	FE1601		
海外事情2	4	1	FE1602		
海外事情3	4	1	FE1603		
海外事情4	4	1	FE1604		
海外事情5	4	1	FE1605		
海外事情6	4	1	FE1606		
海外事情7	4	1	FE1607		
海外事情8	4	1	FE1608		
海外事情9	4	1	FE1609		
海外事情10	4	1	FE1610		
海外事情11	2	1	FE1611		
海外事情12	2	1	FE1612		
海外事情13	2	1	FE1613		
海外事情14	2	1	FE1614		
海外事情15	2	1	FE1615		
海外事情16	2	1	FE1616		
外国事情A	2	1	FE1617		
外国事情B	2	1	FE1618		
外国事情C	2	1	FE1619		
外国事情D	2	1	FE1620		

選択必修科目

ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語の中から1ヶ国語を選択し、入門・基礎・時事・応用の1と2を修得しなければなりません

入門ドイツ語1・2	入門スペイン語1・2
基礎ドイツ語1・2	基礎スペイン語1・2
時事ドイツ語1・2	時事スペイン語1・2
応用ドイツ語1・2	応用スペイン語1・2
入門フランス語1・2	入門中国語1・2
基礎フランス語1・2	基礎中国語1・2
時事フランス語1・2	時事中国語1・2
応用フランス語1・2	応用中国語1・2

卒業要件

NGU教養スタンダード科目	キリスト教	4単位以上	34単位以上
	自己理解と自己開発	6単位以上	
	社会的教養	12単位以上	
	教職 <sup>※1</sup>	10単位以上	
	言語とコミュニケーション	2単位以上	
情報理解	2単位以上		
学部科目		14単位以上	14単位以上
学科専門科目	必修	30単位	54単位以上
	選択	24単位以上	
自由選択科目(フリーゾーン) <sup>※2</sup>		22単位以上	124単位以上
合計			

※1 教職課程加入者のみ履修可。8単位までは社会的教養の単位とすることができる。

※2 NGU教養スタンダード科目、学部科目、学科専門科目、オープン科目を問わない自由な選択

## オープン科目（こどもスポーツ教育学科、リハビリテーション学部を除く）

現代社会の諸問題はさまざまな学問分野が絡み合っており、学部の枠を越えた幅広い学際的な知識と能力が必要です。そこで、幅広い視野と柔軟な思考力を兼ね備えた人材を育成するため、他学部が開講する《専門科目》を卒業要件単位として履修できるオープン科目制度を設けています。

多くの学部で専門教育科目の一部をオープン科目として他学部公開するとともに、履修したオープン科目の単位を卒業所要単位として認定しています。オープン科目を学ぶことにより、学びの視野を広げ、専門分野の知識をいっそう深めることができます。

なお、オープン科目を履修する場合は、自分が所属する学部において必要な科目履修に支障をきたさないよう、授業時間割、履修上限単位数などに十分な注意を払うようにしてください。

### オープン科目対象科目

- オープン科目は、各学部で指定された科目（開放科目）にかぎられます。
- オープン科目は、入学した年度によって異なります。履修を希望する場合は、該当する入学年度の「オープン科目（他学部履修科目）一覧」（毎年3月中旬頃、CCS 掲示板に掲示します）を確認の上、CCS で該当する科目のシラバスを照会し、担当者、曜日・時限、講義内容などを確認してください。また、授業教室については、授業を公開する学部の時間割を参照してください。
- 自分の履修するカリキュラムにある科目と同一名称の科目がオープン科目にある場合、その科目は履修することはできません。
- オープン科目は年度によって変更となる場合があります。

※ なお、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科・リハビリテーション学部はオープン科目の対象としていません。

### 履修可能学部・履修条件・履修可能単位数

学部	履修条件	履修可能単位数
経済学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生以上であること</li> <li>・前年までのGPAが2.5以上であること</li> <li>・2年次：30単位以上、3年次：60単位以上、4年次90単位以上を修得していること</li> </ul>	1年間で4科目8単位まで履修可能 4年間で12単位まで
現代社会学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生以上であること</li> <li>・前年までのGPAが2.0以上であること</li> </ul>	1年間で2科目4単位まで履修可能 4年間で8単位まで
商学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生以上であること</li> <li>・前年までのGPAが2.0以上であること</li> </ul>	制限なし
法学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生以上であること</li> <li>・前年までのGPAが2.5以上であること</li> </ul>	1年間で4科目8単位まで履修可能 4年間で12単位まで
外国語学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生以上であること</li> <li>・前年までのGPAが2.0以上であること</li> </ul>	半期2単位、年間4単位まで
国際文化学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生以上であること</li> <li>・前年までのGPAが2.0以上であること</li> </ul>	1年間で2科目4単位まで履修可能 4年間で8単位まで
スポーツ健康学部 スポーツ健康学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生以上であること</li> <li>・前年までのGPAが2.0以上であること</li> </ul>	半期2科目まで

## 単位認定

《自由選択科目（フリーゾーン）》の科目として認定します。

## 履修方法

オープン科目の履修希望者は以下の手順で申し込みをおこなってください。

- ① 時間割開示時に、オープン科目一覧表で履修希望科目を決定する。
- ② 教務課窓口または瀬戸キャンパス総合事務部にて、「オープン科目履修願」を記入し、提出する（オープン科目については CCS から直接履修登録できません）。

なお、受けつけ期間はオープン科目一覧表とともに CCS に掲示します。受けつけ期間以外は一切受けつけできません。

- ③ 受けつけ期間終了後、履修希望人数を集計、調整をおこない履修登録画面へ反映させます。

## 注意事項

- 履修を検討したい科目のシラバスを必ず読んでから受講してください。
- オープン科目の履修は Semester ごとの履修制限単位数の規則に従います。
- オープン科目対象科目の開講曜日時限は、科目を提供している学部の時間割にて確認してください。
- すべての科目に受講者数の定員を設けています。履修は、科目を提供している学部の学生を優先しますので、必ずしも履修願に記入した科目すべてが履修できるとはかぎりません。
- オープン科目の履修の取り消し、変更は一切できません。



## 他大学との単位互換

### 愛知学長懇話会の単位互換

愛知学長懇話会には、愛知県内すべての4年制大学が加盟しています。愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に加盟している大学に所属する学生は、他の大学で開講されるさまざまな科目を履修することができ、かつ、履修した科目が在籍する大学の単位として認められる制度です。愛知県内の大学に在学するメリットのひとつとしてぜひ活用してください。

なお、単位互換向けに開放される科目の受講料は無料ですが、科目によっては実験・実習・研修などの実費が必要となる場合があります。詳細は、愛知学長懇話会のホームページ (<http://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp/syllabustop>) を確認してください。

#### 注意事項

派遣履修生資格	<ul style="list-style-type: none"><li>各学部2年生以上 (以下、外国語学部で追加する資格)</li><li>履修時に、学部卒業要件における修得単位数の合計が40単位以上</li><li>上記修得単位のGPAがおおむね2.5以上</li></ul>
履修期間	1 Semesterまたは1学年とし、再応募することができる。
履修可能単位数	1 Semesterあたり6単位、もしくは1学年あたり12単位までとする。ただし、同一期間内で本学における履修とあわせて本学「履修規程」第6条の履修制限内とする。
認定可能単位数	学則第17条の定めにより他の大学における授業科目の履修として、60単位を超えない範囲で単位を認定する。

※ 3月頃に、CCSにて希望者の募集をおこないます。

### 大学連携による「知域」拡大プロジェクトの単位互換

北海道・関東・東海・近畿の大学連携による「知域」拡大プロジェクトは、加盟する6大学の開放科目を、eラーニングシステム「TIES(タイズ)」を利用して受講し、大学の単位として認められる制度です。詳細は、北海道・関東・東海・近畿の大学連携による「知域」拡大プロジェクトのホームページ ([http://www.tiesnet.jp/link/renkei\\_gp](http://www.tiesnet.jp/link/renkei_gp)) を確認してください。

#### 注意事項

派遣履修生資格	各学部2年生以上
履修期間	相手先の連携大学で履修することのできる授業科目の開講学期とする。
履修可能単位数	1年度につき10単位以内とする。ただし、同一期間内で本学における履修とあわせて本学「履修規程」第6条の履修制限内とする。
認定可能単位数	本制度により認定できる単位数は合計30単位を上限とする。ただし学則第17条から19条に規定のある単位認定とあわせて、全体で60単位の範囲内とする。

※ 4月上旬頃に、CCSにて希望者の募集をおこないます。